

指定管理者制度導入施設の管理運営状況等に関する評価表
(評価対象年度:令和2年度)

<施設概要>

施設	文化会館たづくり
施設の設置目的	市民相互の交流をとおして市民のふれあいと連帯意識の形成を促進するとともに、文化の振興、市民の健康保持増進、情報の提供、防災対策の促進等に寄与する
指定期間	平成31年(2019年)4月1日～令和11年(2029年)3月31日
指定管理者	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
所管部署	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課

<施設の過去3箇年の主な管理実績>

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数	187万5956人	183万9077人	110万7831人
事業参加者数	21万1322人	21万4406人	7万3391人 その他、映像配信視聴回数 3453回
貸出施設稼働率	ホール系:83% 会議室系:70%	ホール系:83% 会議室系:70%	ホール系:56% 会議室系:52%
指定管理料(市決算額)	5億5148万6731円	5億6229万1395円	5億9720万6820円
利用料金収入	8259万6460円	7458万9835円	2710万1525円

<指定管理者における全体総括>

<p>令和2年度は、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」を踏まえ、財団基本計画に基づき、市民や地域と連携・協働しながら事業に取り組みました。</p> <p>事業運営では、東京2020大会の機運醸成とレガシー継承に向けて、これまで積み上げてきた事業の集大成として「たづくりアスリートワンダーウォール!」、「調布能楽odyssey」、「クリエイティブリユースでアート!」を実施するとともに、共生社会の推進をテーマにした「調布・巡る・アートプロジェクト」では、文化会館たづくりを中心に、グリーンホール、せんがわ劇場の3施設を一体的に活用し、現代アート作品の展示や市内福祉作業所等と連携したオンラインワークショップ、展示作品や市内アートスポットを巡るデジタルスタンプラリーを行い、市内の回遊性を創出しました。そのほか、展示では、調布ゆかりの「武者小路実篤記念館移動展」、「中川平一風景画展」、子どもと一緒に楽しめる「大村雪乃展」や「岡田千晶絵本原画展」などを実施しました。「ちょうふ市民カレッジ」では、子ども向けの講座に新たなジャンル(映像、写真、ダンス、お絵かき)を加え、多くの講座が申込初日に募集定員に達するほどの反響がありました。</p> <p>施設の管理運営では、窓口での対応やアンケートなど多様な手段を通じて、利用者の声の反映に努めたほか、エレベーターホール・アートプロジェクトにおいて、世界的に著名な千住博氏の作品を掲出し、日本文化の発信・発見の契機としました。</p> <p>組織運営では、人材育成に関して、共生社会の推進を目指して実施してきた「パラ劇場研修」の集大成として、障害のある方とない方が出演者となる公演を実施し、職員の意識向上につなげました。自主財源の拡充についても、寄附金、協賛金、外部助成金などの獲得に積極的に取り組みました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部事業の中止や規模縮小、施設の利用停止や貸出時間短縮などの対応を行ったことに伴い、施設利用者数、事業参加者数及び利用料金収入が減少しました。一方で、予約制の導入やオンラインワークショップ、映像配信など、感染防止対策を徹底したうえで様々な工夫を凝らしながら各事業を実施し、遠隔地の方など新たな参加者の獲得にもつながりました。</p>

＜施設の管理運営等に関する評価(各評価区分の考え方は下段の「評価の目安」を参照)＞

		確認項目	確認欄
業務の実施体制		業務マニュアルの整備(職員への周知含む)	(有(更新) 有 無)
		緊急時におけるマニュアル・連絡体制の整備(職員への周知含む)	(有(更新) 有 無)
		職員の育成(研修・緊急時対応等の訓練)の実施	(実施 未実施)
		＜評価におけるその他の視点＞ ・個人情報保護及び情報漏洩防止のための措置 ・職員の勤務条件・待遇における関係法令の遵守 ・協定書等を遵守した業務の再委託 など	
		・適切な人員配置 ・適時適切な市との情報共有	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(b～d)
	継続的なアートマネジメント人材の育成に取り組み、芸術・文化分野の実務研修や職層に応じた研修をオンラインも取り入れながら実施した。共生社会の推進を目指して実施してきた「パラ劇場研修」では、障害のある方とない方が出演者となる公演の開催に向けて、出演者を講師に招いた財団職員向けの講演会等を開催し、出演者への支援の在り方や鑑賞サポート等について実践的に学びながら取り組んだ(新型コロナウイルスの影響により公演は中止とした)。このほか、「調布・巡る・アートプロジェクト」では、令和元年度採用職員の研修の一環として、所属する課を越えて横断的に編成したプロジェクトチームにより企画を行い、市内福祉作業所等と連携したオンラインワークショップや、視覚障害者向けの鑑賞サポートの取組などを行い、共生社会の実現に向けた職員の意識向上を図った。 また、財団職員を中心に、館内各課、事業者及び委託事業者スタッフを対象に、初期消火や通報・館内放送、階段避難車の体験など、発災時の基本的な対応を確認する自衛消防訓練を年に2回実施し、参加者の意識向上が図られた。また、令和元年台風第19号への対応を踏まえ、風水害時のたづくりにおける避難所開設に関して、市と連携を図りながら、避難所開設訓練を実施し、避難所開設マニュアルの策定に向けた協議を行った。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策においては、施設の利用停止及び利用キャンセルに伴う利用料金の還付のほか、一部事業の中止又は延期、オンライン配信を含む開催方法の変更など、市及び関係機関との情報共有や連携の下、迅速に対応した。		b

評価の目安(b～d)

- b: マニュアル整備や研修等が適切に実施されており、その他、協定内容や関係法令等が遵守されている。
- c: マニュアル整備や研修等の実施、協定内容や関係法令等の遵守について一部改善を要する点がある。
- d: 業務の実施体制について、抜本的に改善が必要なものがある。

		確認項目	確認欄
施設の維持・管理		施設・設備についての保守点検の実施	(実施 未実施)
		施設・設備に不具合等があった場合の修繕等の実施	(不具合等有 (138件(うち対応138件)) ・ 無)
		備品の適切な管理(台帳との照合)	(実施 未実施)
		＜評価におけるその他の視点＞ ・利用者の安全確保対策 ・適切な衛生管理(清掃対応、感染症対策など) ・指定管理者として必要な保険への加入 など	
		施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	
	設備不具合の早期発見・早期対応により、建物全体の長寿命化を図るため、日常定期点検を積極的に実施したほか、138件の修繕を行った。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドライン」に基づき、施設の利用停止や収容率の制限等を行ったほか、市民利用も含め参加者の多い事業に活用できるよう、サーマルカメラを早期に導入し、より効果的・効率的な対策を行うとともに、市民の利便性の向上を図った。		b

評価の目安(a～d)

- a: 施設・設備の点検や修繕等への適切な対応に加え、先進的な対策の導入など、優れた安全対策や維持保全などが行われている。
- b: 施設・設備の点検や修繕や備品管理、安全対策などをはじめ、施設の維持・管理が適切に実施されている。
- c: 施設・設備の点検や修繕等の施設の維持・管理について一部改善を要する点がある。
- d: 施設の維持・管理について、抜本的に改善が必要なものがある。

確認項目	確認欄
計画した事業(サービス)の実施	(計画どおり 一部未実施 多くが未実施)
利用者数の状況(前年度比較)	(前年比5%超増・同水準(±5%) 前年比5%超減)
貸出施設稼働率の状況(前年度比較)	(前年比5%超増・同水準(±5%)・ 前年比5%超減)
新たなサービス(事業)の実施	有 (3件)・無)主な実施内容: ちょうふアートサポーターズ, 展示室での翻訳機設置, オンラインによる配信
サービスの見直し(利用方法・事業回数・時間帯等)の実施	有 (1件)・無)主な実施内容: 施設利用カードの3館共通化
職員の接遇態度(言葉遣い, 態度, 服装, 問合せへの対応等)	優れている 普通・要改善)
サービスの提供	<p><評価におけるその他の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって分かりやすい施設利用案内や事業等に関する情報提供 ・施設の設置目的に沿ったサービスの提供及び事業の実施 ・協定書等に基づく施設の開館日・開館時間の遵守 ・利用申請等に対する迅速な対応 ・利用者に対する附帯設備・備品等の適切な提供 ・利用者からの苦情や要望等に対する適切・迅速な対応及び市への報告 ・施設の利便性向上・利用促進に関する取組 ・利用者満足度アンケート調査等の結果 など
	<p>施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)</p> <p>施設の利用率は、ホール系56%、会議室系が52%であり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の利用停止や収容率の制限等を行ったことに伴い、前年度比で大きく減少した。一方で、施設利用者アンケートによる満足度(「どちらかといえば満足」を含む。)は97.4%であり、前年度と同程度の高い水準を維持している。</p> <p>令和2年度からの新たなサービスとして、従来の財団主催事業ごとに募っていた市民ボランティア及びせんがわ劇場固有の市民サポーターについて、文化施設3館で行われる各種財団事業の運営ほか、モニタリングサポートやアクセシビリティサポートなどにおいても活躍いただく「ちょうふアートサポーターズ」として新たに活動を開始した。令和2年度は、「調布・巡る・アートプロジェクト」において視覚障害者向け鑑賞サポートの検証に協力いただくなど、市民の文化活動への参加機会を広げるとともに、より効果的な事業展開につながる取組となった。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響により、計画事業の一部を中止・延期とした一方で、予約制の導入やオンラインワークショップなど、様々な工夫を凝らしながら事業を実施し、遠隔地の方など、新たな参加者の獲得につなげることができた。</p>
	評価(s~d)
	a

評価の目安(s~d)

- s: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)について, 特に優れた実績がある。
- a: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)が適切に実施され, かつ, 前年度実績を上回る実績が複数あるなど, 優れた実績がある。
- b: サービスの提供について協定書等の内容に基づき, 概ね適切に実施できている。
- c: サービスの提供について協定書等の内容に基づく対応が実施されていないものが散見され, 一部改善を要する点がある。
- d: サービスの提供について, 抜本的に改善が必要なものがある。

財務 の 状 況	確認項目		確認欄
	収支計画を踏まえた実績	利用料金収入	(計画比+5%超 ・ 同水準(±5%) 計画比-5%超)
		支出総額	(計画比+5%超 同水準(±5%) ・ 計画比-5%超)
	収入(指定管理料を除く)の状況(前年度比較)		(前年比5%超増 ・ 同水準(±5%) 前年比5%超減)
	収入確保や経費縮減の取組		有 ・無)主な取組内容: 寄附金, 企業協賛金及び外部助成金の獲得
	<評価におけるその他の視点> ・指定管理料の適切な管理(帳簿等の整備) ・利用料金等に関する適切な収納及び還付事務の実施 など		
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(s~d)
<p>文化庁や朝日新聞文化財団などから新たな補助金等を獲得したほか, 用途を限定しない寄附金については, 各事業において寄附の呼び掛けの場を設けるなどのPRを効果的に行った結果, 前年度を超える金額を確保した。</p> <p>なお, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 施設の利用停止や利用キャンセルに伴う利用料金の全額還付を行ったことにより, 利用料金収入は令和2年4月及び5月分がマイナス値となり, 年間を通じて前年度と比べて大きく減少した。利用料金収入の実績及び減収影響の見込み分について財団と協議を行い, 指定管理料の追加交付を行った。</p>		a	

評価の目安(s~d)

- s: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え, 収入増加や経費縮減に関して, 特に優れた対応・実績が見られる。
- a: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え, 収入増加や経費縮減に関して, 優れた対応・実績が見られる。
- b: 収支計画等に基づく適切な運営が概ね実施できている。
- c: 収支計画等に基づく適切な運営や, その他財務に関連する取組に一部改善を要するものがある。
- d: 収支計画等に基づく適切な運営や, その他財務に関連する取組に関して抜本的に改善が必要なものがある。

そ の 他	確認項目		確認欄
	地域等との連携による取組の実施		実施 未実施)主な実施内容: クリエイティブリユースでアート!, 調布・巡る・アートプロジェクト, 調布能楽odyssey, 調布市民歌舞伎, たづくりアスリートワンダーウォール! など
	地域貢献活動の実施		実施 未実施) 主な実施内容: 調布駅前クリーン作戦
	<その他評価の視点> ・省エネルギー, 省資源等の取組による環境への配慮 ・市民雇用の取組 ・地域経済の発展に資する取組 など		
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(s~d)
<p>施設のライフサイクルコスト削減に向けた省エネルギー化を推進している中, 令和2年度の電力使用量については, 施設の利用停止等の影響を受けており, 数値的な評価は困難であるが, 空調・照明設備等の見直しに引き続き取り組むことで, 更なる省エネルギー化を期待する。</p> <p>地域の産業に触れながら, 廃材・端材で創作活動を行う「クリエイティブリユースでアート!」では, 前年度から市内小学校等においてアウトリーチを行うなど, 地域との連携の下に事業展開してきたが, 令和2年度は新型コロナウイルスの影響を踏まえ, 各家庭で制作したパーツを募集し, 展示する市民参加型の取組として展開した。また, 「能楽 odyssey」ではこれまでの3年間, 舞台照明や映像等の新たな試みを加えた舞台公演やアウトリーチなど様々な切り口で展開してきたシリーズの集大成として, 深大寺や深大寺そば組合等との連携の下, 深大寺の歴史を題材にしたオリジナル新作能を上演した。</p> <p>東京2020大会の開催に向け, たづくり1階エントランスの壁面を, 市内開催競技をテーマとしたイラストでラッピングし, 芸術・文化を通じた機運醸成に寄与した。</p>		a	

評価の目安(s~d)

- s: 4つの視点に関する取組以外に, 地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて, 特に優れた対応が見られる。
- a: 4つの視点に関する取組以外に, 地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて, 優れた対応が見られる。
- b: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組が行われている。
- c: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組に関して一部改善を要するものがある。

d: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への取組について、抜本的に改善が必要なものがある。

<施設所管部署における全体総括>

令和2年度は、財団基本計画を踏まえて、東京2020大会の機運醸成とレガシー継承に向け、「パラ劇場研修」や「調布・巡る・アートプロジェクト」等の共生社会の推進、「調布能楽 odyssey」等地域の文化資源の活用をはじめ、芸術文化の振興及びコミュニティの活性化につながる様々な取組が展開されるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を含め、施設の適切な管理運営が行われた。事業運営においては、オンラインワークショップや映像配信等の新たな取組や、「ちょうふアートサポーターズ」の活動開始などにより、市民の文化活動への参加機会を広げるとともに、より効果的な事業展開につながる取組が行われた。

これらのことを踏まえ総合的に判断すると、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、市民の文化活動の機会を絶やさぬよう、様々な工夫を凝らしながら事業を展開し、新たな事業参加者の獲得にもつなげるなど、期待通りの業務が行われたものと高く評価することができる。今後も、市民が芸術文化に触れる機会の充実に努めながら、市民の文化活動が促進されるとともに、利便性が高く、安全・安心な施設管理が継続されるよう指導していく。

総合評価

A

総合評価基準

以下、施設の管理運営等に関する各視点に基づく評価に対応した係数の合計で総合評価を決定する。

<係数>
s→10
a→8
b→6
c→4
d→2

各視点に基づく評価の
係数合計を算出

<総合評価基準>
S(特に優れている)
→42 ~ 44(かつ各視点でc評価が無い)
A(優れている)
→36 ~ 41(かつ各視点でd評価が無い)
B(良好)
→26 ~ 35
C(要改善)
→16 ~ 27
D(要抜本的見直し)
→10 ~ 15